

『名古屋の昭和』と少年時代

このレポートで何度も書いてきたが、わたくし「生まれも育ちも名古屋市千種区千種本町1丁目」。昔の千種駅に近い、飯田街道沿いの「鉄道官舎」で育ち、ここから千種幼稚園、千種小学校に通った。

とにかく幼い頃は病気ばかりで、よく生きられたものだと、のちに母から聞かされた。小学校に行ってから、だんだんと体力もついて、背だけは伸びていった。でも、手や足は細く、鉄棒の逆上がり、跳び箱など、体育は大の苦手だった。

写真の今池界わいは、自宅や千種小学校に近いこともあり、いまでも記憶に残る。今池交差点近くには映画館がいくつもあり、よく映画を見に行った。写真にも「かつて今池は『映画の街』」と言われ、最盛期には8つの映画館があった。中央に写る映画館は新今池ビル1階に入り、昭和40年代までは大勢の来館者があった」と書かれている。

小学生ひとりで「チャンバラ映画」などを今池まで見に行ったものだ。そんなことが、どうして当時できたのか母に聞いてみたいが、もうできない。「寅さん」をはじめ、映画好きになったのは今池のおかげだ。

今池は様変わりしたが、大きな通りを一步入ると、まだ写真のような趣がある。今池は下町的な風景を残す繁華街といえる。その左の写真は「今池交差点南の歩道に並んだ屋台。その向こうを市電が走る。名古屋の広小路屋台といえは栄が有名だが、今池にもあった」と。写真には昭和48年・提供=名古屋市交通局と書かれている。ここから池下の方に行くと、わが愛すべき「當り屋」さんの屋台があった。

次の写真は「日本ヘラルド映画を創業した古川為三郎邸宅の東辺り、千種区掘割町・昭和33年」とある。どうして、この写真に注目したか。千種本町から高見町の「国鉄アパート」に引っ越し、高見小学校に転校したからだ。池下が馴染みの地域となる。

写真は池下駅から数分の小高いところだ。高見小学校に通っていた頃、「金持ちの家」らしきの同級生がおり、その邸宅に行って遊んだ記憶がある。2DKの国鉄アパートとは違い、緑に囲まれ、とにかく広かった。幼いながら「格差」というものを感じた。

(2017年2月1日)

